

Newsletter for JADR

I. IADR/APR/JADR 総会・学術大会 in Seoul に際して

JADR 会長 高田 隆

(広島大学医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

第94回 IADR 総会・学術大会が、第3回 IADR-Asia Pacific Region (APR) 学術大会ならびに第35回 IADR Korean Division (KADR) 年次大会と併催で、6月22-25日にソウルで開催されます。安孫子宜光先生が President として開催され、大成功のうちに幕を閉じた第93回 IADR ボストン大会からはや1年あまりが経ち、時の流れの速さに改めて驚かされます。アジアでの IADR 総会開催は、2001年に幕張で開催された第79回大会以来15年ぶりとなります。

一方、IADR/APR は Australian/New Zealand Division, Chinese Division, Indian Division, Korean Division, Mongolian Section, Pakistan Section, Southeast Asian Division そして Japanese Division (JADR) からなる IADR の地域部会で、アジア太平洋地区の歯学研究の交流と発展を目指して組織化されています。IADR/APR の総会・学術大会は4年に一度の頻度で開催され、2009年の武漢大会、2013年のバンコク大会について3回目の開催となります。IADR/APR 大会の開催される年は、JADR 総会・学術大会を国内では開催せず、IADR-APR と併催で IADR-APR 開催国で行うこととしています。今回は6月23日の午後、第64回 JADR 総会・学術大会が開催されます。従って、IADR ソウル大会では IADR-APR 総会・学術大会と JADR 総会・学術大会が併催となり、関連する3つの総会・学術大会が同時に開催されるという記憶に残る大会となります。

JADR 関連のプログラムとしては、JADR 会員の皆様のご発表はもとよりですが、IADR Unilever Hatton Competition, IADR Japanese Division (JADR) Young Investigator Award Competition, IADR/APR symposium などが予定されています。IADR/APR symposium では、JADR からパネリストとして何人かの先生方のご講演が予定されています。また、会期中には IADR 各

種委員会や Research Group の集まりも多数開催されます。最先端の研究発表に加えて、委員会や Research Group のリーダーシップを JADR 会員が発揮することは、IADR の発展に貢献するとともに、AADR に次ぐ歴史と規模を有する JADR の責任とプレゼンスを示す上でとても重要な活動です。なお、6月23日には GC 株式会社のご支援で Japan Night Reception が開催されます。IADR の主要メンバーが数多く出席され JADR 会員と懇談する良い機会となっており、JADR の reputation 向上に大いなお力添えをいただいています。

毎年世界のどこかで開催される IADR 総会・学術大会に参加し、世界の歯学研究の動向を目の当たりにすることは、若手研究者や学生にとって大変意義深いことと考えます。とりわけ韓国は我が国の隣国で、ソウルには約1時間の飛行で行くことができます。今回の IADR ソウル大会を主催する KADR と JADR は長きにわたって交流を行っています。IADR ソウル大会を大いに盛り上げ、KADR とともにその成功を祝福するために、JADR 会員の皆様方におかれましては、お誘い合わせの上、多数のご参加をお願い申し上げます。

なお、上記のように IADR/APR 総会・学術大会が海外で開催される場合は、JADR 総会・学術大会を国内で開催しませんが、国内における学術活動の重要性を鑑みて、学術シンポジウムを開催する予定です。本年度は日本歯科医学会の住友会長のご高配により、JADR と日本歯科医学会との共催で本年12月に学術シンポジウムを開催させていただきます。現在、シンポジウムの内容について、両者で検討しています。グローバルな視点からの興味あるシンポジウムを企画したいと思います。詳細については改めて連絡させていただきますので、こちらにも多数のご参加をお願いいたします。

II. 第63回JADR学術大会報告

1. 第63回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会を終えて

大会長 中村 誠司
(九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座
顎顔面腫瘍制御学分野)

第63回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会を福岡で開催するにあたり、ご高配をいただきました高田隆会長、ならびに理事の皆様方に深謝いたします。本大会は皆様方のご尽力により合計で179もの演題数(特別講演:3, シンポジウム:14, Hatton Award 候補演題:4, 一般演題:156, ランチョンセミナー:2)となり、参加者は291名に上りました。大会に参加して盛り上げていただきました全ての会員の方々に心よりお礼を申し上げます。伝統あるJADRの総会・学術大会を九州大学大学院歯学研究院が担当させていただくのは初めてのことでしたが、無事に大役を務めあげることができ、胸をなで下ろしているところです。

今回は、九州大学大学院歯学研究院の理念である「口腔から全身の健康に貢献する」をテーマとして企画をさせていただきました。国際歯科研究学会(IADR)のMarc W. Heft会長と国際歯科研究学会韓国部会(KADR)のYoung Ku会長には、特別講演で我々が目指すべき将来について多くの示唆をいただきました。また、東京大学医科学研究所感染遺伝学分野の三宅健介教授には、自然免疫あるいは自然炎症における核酸代謝の重要性を示していただき、様々な口腔疾患の理解を深めることに繋がる最新の知見を示していただきました。シンポジウムに関しましてはモデレーターの先生方から別に報告をしていただいておりますが、いずれのシンポジウムも先端的な素晴らしい内容で、今後の研究の方向性や臨床応用の可能性を明確に示していただいたと思います。

本大会の会場は少々不便な場所にある福岡国際会議場でしたが、天気にも恵まれたために会場からは博多湾が一望でき、大会の間の休憩の際には疲れを癒してくれたのではないかと思います。福岡に滞在中は街を十分に堪能していただけたでしょうか。参加していただいた全ての方々にとって、本大会が学術的に有意義なものであっただけでなく、記憶に残る大会であったことを祈念しております。

繰り返しになりますが、本大会に参加していただきました全ての方々に心よりお礼を申し上げます。また、最後になりますが、本大会の企画から運営までをやり遂げてくれた川野真太郎準備委員長ならびにすべての教室員に感謝し、本大会の報告とさせていただきます。

2. Symposium I

Exploratory Research on Cell Signaling-based Periodontal Regeneration

西村 英紀
(九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野)
讃井 彰一
(九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野)

組織の再生には細胞/増殖因子/足場のいわゆる3要素が重要であるとされる。一方で再生過程における細胞シグナルの解明は、3要素のコミュニケーションによる再生の分子基盤の解明に役立つのみでなく、シグナル操作に基づく新たな再生療法の開発にも寄与する。細胞シグナルは非常に複雑なステップを経て伝達されるのみでなく、シグナル間のクロストークなどにより巧妙に制御される。従って、その解明は、再生途上で異なるシグナルを駆使した効率的な再生療法の確立に寄与する。以上の観点から4名のエキスパートに自身の成果を中心に発表いただき、細胞シグナルに関する理解を深めた。講演者の主な内容を以下に記す。

●松崎英津子氏(福岡歯科大学)

S1P(Sphingosine-1-phosphate)は骨芽細胞に対してRhoA/ROCK(Rho-associated kinase)の活性化を介して分化を促進、未分化間葉系幹細胞に対しcAMP蓄積の抑制により脂肪細胞分化を抑制する一方、Wnt5aを介し骨芽細胞分化を促進することを報告した。硬組織再生におけるS1Pの有用性を示した。

●山本直史氏(岡山大学)

TGF β シグナルの下流で作用するSmad2と、細胞骨格ダイナミクスを調整するROCKが歯肉上皮細胞と歯根膜細胞において、時間的空間的に細胞遊走および硬組織形成分化を制御することを報告した。これらの組み合わせで、歯周組織再生に最適な細胞動員と微少環境が生み出される可能性を示した。

●讃井彰一(九州大学)

FGFシグナル抑制因子であるSpouty2の抑制で、骨芽細胞では細胞増殖と骨分化の促進、歯肉上皮細胞では細胞増殖の抑制、歯根膜細胞では細胞遊走が促進されることを報告した。さらに、マクロファージに対してはM2マクロファージの分化を誘導するという興味深いデータを示した。

●根本英二氏(東北大学)

Wnt3aを代表とする古典的経路は、セメント芽細胞の細胞増殖の亢進および分化抑制を誘導し、歯小嚢細胞においてALP活性を誘導すること、さらに非古典的経路の代表であるWnt5aは逆にALP活性の負の調整因子であることを見出し、古典的/非古典的Wntシグナル間の巧妙なバランスが新生セメント質形成に重要であることを示すデータを紹介した。

3. 第63回 JADR 学術大会シンポジウム2 報告 — Chronic Pain Problems in Clinical Dentistry: Their Clinical Features and Basic Mechanisms —

古谷野 潔

(九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野)

口腔顔面領域の慢性の痛みについては、その存在は認識されているものの、臨床的特徴やメカニズムについては十分知られていないのが現状である。そこで、本シンポジウムでは歯科臨床における慢性痛の臨床的特徴とその背景にあるメカニズムについて、臨床および基礎の両面から3名の先生に講演を頂いた。

まず築山能大先生(九州大学大学院歯学研究院)は、口腔顔面領域の慢性痛の臨床的特徴(allodynia, hyperalgesiaなど)と背景にあるメカニズムである末梢および中枢神経系における感作について臨床例を交えて概説された。次に、松香芳三先生(徳島大学大学院医歯薬学研究所)は、非菌原性歯痛(歯が原因ではない歯の痛み)について、日本口腔顔面痛学会が発行した非菌原性歯痛診療ガイドライン(2012年)に基づく診察、診断、および治療の解説、さらに、botulinum toxin type A (BoNT/A)による三叉神経知覚核での神経伝達物質放出の抑制に関する基礎研究について講演された。最後に、痛み研究で世界的に著名な井上和秀先生(九州大学大学院薬学研究院)は、神経の損傷や機能障害によって生じる神経障害性疼痛の基礎的なメカニズムについて、脊髄後角のmicrogliaにおけるP2X4受容体の発現に至るシグナル伝達が神経障害性疼痛の発症に重要な役割を果たしていることを、最新のデータを用いて紹介された。

今回のシンポジウムは、口腔顔面領域の慢性痛について臨床および基礎の両面から情報提供したものであり、参加されたJADR会員にも有益かつ有意義な内容であったと意を強くしている。本シンポジウムを企画する機会を頂いた大会長 中村誠司先生ならびに、ご講演頂いた築山先生、松香先生、井上先生に、心より御礼を申し上げます。

4. シンポジウムⅢ報告 Cutting Edge of Biomaterials for Tissues Regeneration and Reconstruction

今里 聡

(大阪大学大学院歯学研究科 歯科理工学教室)

歯科治療に材料が必要不可欠であることは古今東西変わらない事実であるが、近年の歯科生体材料研究は、組織の「再建用」と「再生用」の二つの側面から進められ、各カテゴリ

ーにおいて革新的な材料・技術の開発が絶え間なく行われている。今回のシンポジウムでは、都留寛治先生(九州大学)、吉田靖弘教授(北海道大学)、加藤功一教授(広島大学)、および筆者の計四人の演者が、それぞれに行っている独自の歯科生体材料研究について紹介した。

都留先生からは、「Fabrication of interconnected macro porous carbonate apatite bone substitute using granular bridging with brushite」と題して、骨補填材として有用な最新の炭酸アパタイト材料の紹介があった。吉田先生は、「Bioadhesives for hard-tissue reconstruction and regeneration」という演題で、リン酸化プルランの組織再建と再生への応用について広く解説された。また、筆者は、組織再建用材料と組み合わせるための生体非吸収性の薬剤徐放用ポリマー粒子に関する研究を、「Non-biodegradable polymer particles for drug delivery to achieve bio-functional reconstructive materials」という演題のもとで紹介した。そして、加藤先生には、「Genetically-engineered proteins as functional building blocks for tissue engineering scaffolds」という演題で、組織工学のためのケモカイン等とスキャフォールドとの組み合わせについて解説をいただいた。

いずれも先端的で目を見張る内容であり、生体材料研究の幅広さと奥深さを再認識するとともに、これらのテクノロジーが臨床応用される日が大いに待ち遠しいと感じられる非常に興味深いシンポジウムとなった。

5. シンポジウムⅣ

A paradigm shift from reductionism to holism:
oral microbime related to human health

山下 喜久

(九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座口腔予防医学分野)

生命現象の探求では、一般に複雑な要因をできるだけ単純化して(reductionism)、各要因の役割をin vitroで個別に究明していく方法論がこれまでの大道であった。タンパク質の精製、遺伝子のクローニング、細胞の単離などは正に要因の単純化に大きく貢献することで生命科学の牽引力となってきた。口腔疾患の病因論の解明においても、700種を超える多種多様な口腔細菌種からミュータンスレンサ球菌やPorphyromonas gingivalisを始めとするレッドコンプレックスが単離され、齲蝕ならびに歯周病の特異的病原性細菌としてその性状の解明が進められてきた。これらの細菌はさらに分子レベルにまで分解され、その病原性の全貌が解き明かされようとしているかに見える。

しかし一方で、単純化された要因を足し合わせても生命現象にはほど遠く、要因を総合的に解析することで初めて実体を明らかにできるというholismの必要性が歯学を含めた生命科学の分野で認識されるようになってきている。本シンポジウムでは、口腔細菌叢の網羅的解析を進めている九州大学大

学院歯学研究院准教授竹下徹先生、歯周病原性細菌として注目されている *Porphyromonas gingivalis* の病原性の発揮に口腔細菌叢全体の働きが重要であることを提唱している大阪大学大学院歯学研究科教授天野敦雄先生、口腔細菌叢全体のエンドプロダクトとしての酪酸が口腔ならびに全身の健康に与える影響の解明を様々な角度から進めている日本大学歯学部教授落合邦康先生に、holism の考えに立つこれからの歯学研究の方向性を解説いただくことで、学会員に新しい研究の進め方の重要性を提示いただいた。

Ⅲ. 2015 年度 JADR/GC 学術奨励賞を受賞して

1. 2015 年度学術奨励賞を受賞して

岩山 智明

(大阪大学大学院歯学研究科 第一解剖学教室、口腔治療学教室)

この度、第 63 回 JADR 学術大会にて発表いたしました「Perivascular identity of Nestin+ cells in periodontal ligament」という演題に対し、2015 年度学術奨励賞を受賞致しました。このような賞を賜りましたことを大変光栄に感じております。関係の先生方に謹んで御礼申し上げます。

歯周組織の恒常性は歯根膜中に含まれる間葉系幹細胞によって維持されていると考えられており、同細胞群の解剖学的局在やその機能を解明することは歯周組織のより深い理解につながり、さらには新規歯周組織再生治療法の開発のための基盤情報が得られるものと期待されます。本研究では、他組織において間葉系幹細胞を標識することが示されている Nestin 陽性細胞について、その歯根膜における局在や機能を Nestin-GFP トランスジェニックマウスを用いて解析し、同細胞は歯根膜の毛細血管近傍に位置する周皮細胞であり、単離した Nestin 陽性細胞は多分化能を持つ間葉系幹細胞を多く含んでいることを報告いたしました。

ポスターディスカッションによる審査では、前室にて待機している際には張り詰めた空気に包まれ大変緊張しましたが、いったんポスター発表が始まると、審査員の先生方に研究成果を伝えたい一心でした。後のディスカッションでは多くご質問やご指摘をいただきました。私にとってこのようなディスカッションは研究者としての一番の楽しみです。会員懇親会にて審査結果が発表された際には激励のお言葉をいただき、身の引き締まる思いでした。

私が本年 4 月まで留学した米国オクラホマ医学研究財団の大先輩である、大会長の九州大学・中村誠司教授や、特別講演をして頂きました東京大学・三宅健介教授とお会いしてお話できたこと、帰国後の初めての学会であったこと、他大学の先生方の活発な研究に触れ議論を交わせたこと、そして学術奨励賞をいただけたことと、私にとって忘れられない学会

となりました。

今回の受賞を励みにし、歯周組織の恒常性維持やその組織修復・再生における細胞動態を解明し、世界に向けて発信できるように、今後とも日々研究に精進していきたいと思っております。

最後になりましたが、発表にあたり多くのご指導をいただきました大阪大学・村上伸也教授ならびにご協力頂きました先生方に心より感謝申し上げます。

2. 2015 年度学術奨励賞を受賞して

大嶋 淳

(大阪大学大学院 歯学研究科口腔分子感染制御学講座
(歯科保存学教室))

この度、福岡市にて開催された第 63 回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会で発表いたしました「RabGDI α limits interferon-inducible GTPase-mediated immunity and inflammation」という演題に対し、2015 年度学術奨励賞いただきましたこと大変光栄に存じます。

炎症性サイトカインである IFN- γ の歯周疾患の病態形成への関与はまだ不明な点が多いのが現状です。IFN- γ は歯周炎病巣局所の歯肉で高度に発現しており、辺縁性歯周炎の重症化に影響することが報告されているものの、*in vitro* では逆に破骨細胞の形成を強力に抑制して骨吸収を阻害するとの報告もあり、その詳細な作用機序は未だ解明されていません。我々はこれまで、IFN- γ による細胞内侵入病原体の排除機構に焦点を当てて研究を行ってきました。特に IFN- γ によって発現が誘導される GTPase 群は、寄生胞膜の破壊を伴う細胞内侵入病原体の排除にきわめて重要な分子であることが知られており、我々はその細胞内動態の制御機構を解明することを目標としてきました。

本研究では、IFN- γ 誘導性 GTPase の一種である Gbp2 に結合して膜への集積を阻害する分子として RabGDI α を同定することができました。さらに、RabGDI α を欠損すると IFN- γ 依存的な病原体排除が増強し、インフラマソームの活性化と IL-1 β の放出につながることを明らかにしました。この IL-1 β は、骨吸収を強力に促進することが知られている炎症性サイトカインです。

歯科領域においても近年、*P. gingivalis*, *T. forsythia* など一部の歯周病原性グラム陰性細菌が細胞内に侵入して宿主の免疫系を回避している可能性が示唆されており、IFN- γ 誘導性 GTPase による LPS の細胞質への暴露がインフラマソームを活性化する可能性があります。このように、病原体-宿主相互作用における IFN- γ の機能解明は、病原体を排除するための宿主応答がむしろ炎症の増悪や骨吸収を促進するという諸刃の剣となり、歯周疾患の遷延化を生じていることの証明につながる可能性を秘めています。さらに、IFN- γ は細菌のみならず真菌、原虫感染にも重要な役割があることから、本研究

の進展は感染症免疫学の発展および免疫関連創薬・治療の新規スキームを提供できるものと期待されます。

最後になりますが、本研究に対して御指導いただきました大阪大学微生物病研究所 山本雅裕教授、様々な形でご支援いただきました同大学院歯学研究科 歯科保存学教室の林 美加子教授ならびに野村由一郎准教授に心より感謝申し上げます。

3. 2015 年度学術奨励賞を受賞して

高橋 直紀

(新潟大学大学院医歯学総合研究科 歯周診断・再建学分野)

この度、福岡で開催されました第 63 回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 学術大会におきまして「Neuronal TRPV1 activation regulates alveolar bone resorption by osteoclasts via CGRP」という演題で発表させていただき、2015 年度 JADR/GC 学術奨励賞を受賞いたしましたことを大変光栄に思います。JADR 会員ならびに役員の先生方に心より感謝申し上げます。

近年同定された Transient receptor potential (TRP) タンパクファミリーは、温度や機械刺激、化学刺激により活性化される感覚センサーとして機能するイオンチャネルであることが知られています。その中で、カプサイシン・酸・熱により活性化される TRPV1 は、神経組織をはじめとして多くの組織に広く発現しており、皮膚炎や腸炎などの炎症性疾患への関与も報告されていますが、歯周炎との関連はほとんど報告がありませんでした。そこで我々は、以前確立した歯周炎モデルマウスを用いて、TRPV1 が歯周炎の病態形成に及ぼす影響の検討を行いました。その結果、TRPV1 ノックアウトマウスは野生型に比較し、歯周炎が重症化することを確認し、それが神経に発現する TRPV1 に依存的であることを明らかにしました。そのメカニズムとして、骨代謝に関連することが知られている神経ペプチドのひとつである calcitonin gene-related peptide (CGRP) に注目しました。CGRP が TRPV1 陽性の神経に発現しており、TRPV1 の活性化によって CGRP が産生誘導されることを確認した後、*in vitro* において CGRP が破骨細胞への分化を抑制することを明らかとしました。さらには TRPV1 チャネルのアゴニストを口腔内から投与することで TRAP 陽性細胞数が減少するとともに歯槽骨吸収が抑制されることを確認しました。歯周組織における「神経と骨のクロストーク」は歯周疾患発症のメカニズムを探る新しい概念となるだけでなく、TRP チャネルタンパクをターゲットした歯周病予防・治療の新規薬物の開発につながると考えられます。ポスタープレゼンテーションではこの分野で活躍されている先生方から多数のアドバイスも頂きましたので、これらを励みにさらに研究を進めていきたいと思っております。

最後になりましたが、本研究遂行にあたり、常日頃から真摯にご指導くださる新潟大学大学院医歯学総合研究科の山崎和久教授、吉江弘正教授ならびに御協力頂きました全ての先

生方に心より感謝申し上げます。

4. 2015 年度学術奨励賞を受賞して

林 慶和

(九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野)

第 63 回 JADR 学術大会にて荣誉ある学術奨励賞をいただき大変光栄に思います。

以下に今回の受賞演題であります「The role of osteocalcin on cancer progression」の研究内容について概要を述べさせていただきます。

オステオカルシン (OC) は骨芽細胞が分泌する骨基質タンパク質であり、3つのグルタミン酸残基すべてがカルボキシル化された Gla 型 OC (GlaOC)、あるいは非(低)カルボキシル化状態の Glu 型 OC (GluOC) から構成されています。OC は骨芽細胞で分泌された後、GlaOC となることで骨基質に埋め込まれ、骨代謝の過程で一部の OC は溶出し、その溶出した OC は GlaOC が大部分、GluOC が少量という割合で恒常的に血液中を循環しています。

OC が個体の骨代謝レベルを反映することから、癌の骨転移でも OC の血中濃度が高く維持されていることが近年明らかになりました。そこで私は、癌の病態において GlaOC、GluOC のそれぞれがどのような役割を持つのか疑問に思い、研究をスタートさせました。

まず、高頻度に骨転移を起こす前立腺癌の細胞株を用いた実験では、GlaOC は細胞増殖作用、GluOC は細胞増殖抑制作用と反する作用を持ち、その増殖抑制作用が癌細胞特異的であることを見出しました。この結果は、前立腺癌のみならず、メラノーマ等、他の癌種においても同様で、GluOC による癌細胞増殖抑制機序としては、複数の増殖因子の受容体型チロシンキナーゼのリン酸化の抑制であることが示唆されています。in vivo での GluOC の抗癌作用も得られていることから、将来的には、GluOC の治療薬あるいは GlaOC との相対比を利用した診断マーカーとしての医薬応用に向けたトランスレーショナルリサーチを目指したいと考えております。

本学会での発表は、私にとって初の国際舞台であり、発表中の緊張感や、気持ちの高揚を今でも覚えています。今後は、さらに本研究を進展させ、世界に通用する研究者、また歯科医師として邁進できるよう、精進してまいります。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたり御指導下さり九州大学大学院歯学研究院 口腔細胞工学分野 平田雅人教授、九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野 中村誠司教授、福岡大学 薬学部 統合臨床医学講座 免疫・分子治療学分野 安河内(川久保)友世講師、ならびに御協力頂きました全ての先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

5. 2015 年度学術奨励賞を受賞して

船登 咲映

(昭和大学歯学部歯科補綴学講座、口腔生化学講座)

この度、福岡で開催された第 63 回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会 (JADR) におきまして、「Interleukin-1 β induces activation of hyaluronidase and degradation of extracellular matrix in murine chondrocytes in a phagocyte-type NADPH oxidase-derived reactive oxygen species-dependent manner」という演題で発表させていただき、荣誉ある学術奨励賞を受賞いたしましたことを誠に光栄に存じます。学会会員ならびに諸先生方に心から感謝申し上げます。

簡単ではございますが、研究内容を紹介させていただきます。変形性関節症は、関節軟骨に退行・変性が起こり、関節の痛み、こわばり、可動域制限や形態変化を起こす疾患であり、関節軟骨の変性・破壊、関節周囲への骨棘形成を病態としています。我が国では 2400 万人以上の人々に影響を与えています。肘・膝関節が好発部位ですが、歯科の分野では顎関節に生じることが知られています (顎関節症 IV 型)。そこで、以前に我々のグループが軟骨細胞において IL-1 β によって発現が誘導されることを明らかにした NADPH オキシダーゼ (NOX) と NOX が産生する活性酸素種 (ROS) の軟骨基質破壊における役割を検討いたしました。IL-1 β で刺激された軟骨細胞では NOX 由来の ROS に依存して細胞内外の酸性化が起こり、酸性域に至適 pH を持つヒアルロニダーゼの活性が上昇しました。その結果、細胞外マトリックスを構成するヒアルロン酸が分解され、細胞外マトリックスが減少しました。今後は *in vivo* での実験系をすすめ、変形性関節症の治療法の開発に寄与したいと考えております。

今回のポスタープレゼンテーションのディスカッションは私にとって、初めての学会発表であり、さらに英語での発表だったので大変緊張いたしました。先生方から多くの質問やご意見をいただくことができ、研究することとその成果を発表することの重要性を感じました。大変貴重な体験をすることが出来ました。今回の発表をきっかけに、より一層歯学研究に精進していきたいと思っております。

最後になりましたが、本研究の遂行に当たり熱心にご指導下さった歯科補綴学講座の馬場一美教授、口腔生化学講座の上條竜太郎教授と宮本洋一准教授、そして多くの先生方や発表練習を手伝ってくださった方々に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

IV. JADR/Joseph Lister Award を受賞して

1. 2015 年度 JADR/Joseph Lister Award を受賞して

塚 貴彦

(大阪大学歯学部 4 年生)

この度、福岡で開催されました第 63 回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 学術大会におきまして、「*In silico* evaluation of mechanical properties of composite resins using high-resolution nano-CT images」という演題で発表させていただき、2015 年度 JADR/Joseph Lister Award を頂きましたことを、大変光栄に感じております。JADR 役員の先生方ならびに関係各位の方々に心より感謝申し上げます。

大阪大学歯学部で学部教育の一環として実施されている「基礎配属実習」で、私が歯科理工学教室へ配属されたのがきっかけで、本研究テーマに取り組むこととなりました。今回の研究の最終ゴールは、コンポジットレジン (以下 CR) の機械的強度を向上することです。CR の物性には、フィラーやマトリックスレジンの物性はもちろんのこと、フィラーの形状、配置、サイズ、シランカップリング結合の有無などが影響を及ぼすと考えられることから、これらの因子を個別に解析し、重要な因子を効率よく絞り込んでその最適化を図ることにより、CR の物性のさらなる改善が期待できます。

ところで、そういった解析を行うには、実際の CR を正確に再現した解析モデルを作成する必要があります。そこで、我々は、高解像度のナノ CT を用いることにより、試験片の構造を忠実に再現した解析モデルの作成に成功しました。この解析モデルからミクロスケールのモデルを抽出し、均質化解析を行うことでヤング率とポアソン比を計算した後、これらの物性をマクロスケールモデルに反映し、3 点曲げ解析を実施しました。さらに、最大主歪みの最大値が生じた点におけるミクロスケールでの局所化解析を行い、CR のどの部位で初期破壊が生じているかを検討しました。

その結果、ヤング率、ポアソン比ともに、ミクロスケールにおいては異方性を認めること、また、フィラーとマトリックスが完全に結合しているという条件下では、CR の初期破壊がフィラーとマトリックスレジンの界面ではなく、マトリックスレジン内部で生じることが明らかとなりました。したがって、ミクロスケールにおける CR の異方性を最適化し、マトリックスレジンの物性を向上させることで、CR の機械的強度のさらなる増大が可能となるものと考えられます。

また、今回我々が作成したモデルは、複合材料であればどのようなものにも応用可能であるため、今後様々な展開を図りたいと考えています。

最後になりましたが、学部学生である私にこのような機会

を与えてくださった大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座（歯科理工学教室）の今里聡教授、右も左もわからない私に丁寧な指導や様々なアドバイスを下さった山口哲講師、私と共に様々な実験をしてくれた安部友大君にこの場をお借りして心より感謝いたします。

2. 2015 年度 Joseph Lister Award を受賞して

甲山 尚香
(昭和大学歯学部5年)

今回、第63回国際歯科研究学会日本部会で Joseph Lister Award 最優秀賞を受賞いたしました。このような栄誉をいただけて大変嬉しく思うとともに、JADR の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

私は、昭和大学独自のカリキュラムで、学生のうちから研究室に所属し大学院の単位を一年分取得することができるマルチドクターコースを履修していました。卒業後は大学院進学を考えていたことと、骨粗鬆症の治療薬である BP 製剤が顎骨壊死を引き起こすメカニズムに興味があったことから破骨細胞の研究に力を入れている歯科薬理学講座に所属させていただきました。最初は、研究をするということがどういうことなのかも分かっておらず、昭和大学歯学部歯科薬理学講座の高見正道教授をはじめ、多くの先生方に研究を基礎から教えていただきました。

研究は、一朝一夕に結果が出るものではなく、授業や臨床実習が終わってから研究室に通い地道に研究を繰り返すことは辛苦しいときもありました。しかし先生方の研究に対する熱い思いや研究者としての信念などを近くで感じていたので、妥協せず精一杯やることを心掛けました。

今回の研究では、骨転移を伴う癌や骨粗鬆症の治療薬である骨吸収抑制剤デノスマブが妊婦へ及ぼす影響を調べるために抗マウス RANKL 抗体を妊娠マウスへ投与し新生仔や母マウスの骨への影響を調べました。まだ研究段階ですが、得られた研究結果が臨床に役立つことが今後の目標です。

今回 JADR への参加のお話をいただいたときは、やり逃げられるか不安でしたが、研究やポスター作成・発表など新しい経験をすることができました。研究に妥協は許されないことであり、常に真摯で熱い気持ちを忘れずにやっていかなければいけないということも実感しました。

私は将来この経験を活かし、謙虚で優秀な研究者になれるようこれからも精進していきたいと思っております。

最後になりましたが、今回の研究発表に際して親身になってご指導くださった昭和大学歯学部歯科薬理学講座（高見正道教授）の先生方や発表の練習を見てくださった同医学部歯科薬理学部門（小口勝司教授）の先生方、機会を与えてくださった同歯学部口腔生化学講座の上條竜太郎教授にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

3. 2015 年度 Joseph Lister Award を受賞して

濱田 歩実
(鶴見大学歯学部歯学科3年)

この度、2015 年度 JADR/Joseph Lister Award を受賞させていただいたことを大変光栄に感じております。

私は動物の歯科について興味があり、今回の第63回 JADR 学術大会において“The Prevention of Periodontal Disease in Companion Animals -Discovery of Natural Antibacterial Materials against Periodontal Pathogenic Bacteria-”を発表させていただきました。

研究を始めるきっかけは、とても些細な事だったのですが、私の将来の目標である動物歯科医師について話す機会があり、その場にいらした口腔微生物学の前田教授から動物の歯磨剤を作る研究をしてみたらとの誘いを受けました。私は動物に関わる事なら何でもやってみたく思っていたため、是非やらせて下さいとお願い致しました。また、近年動物は様々な場面で私達の QOL を豊かにする存在として重要な立場に置かれています。代表的なものはコンパニオンアニマルとして飼われているイヌやネコなどです。

私が初期段階で実験に使用したのはヒトの歯周病原菌である *Porphyromonas gingivalis* とココアパウダーでした。ココアパウダーには苦味成分であるテオブロミンが含有されています。テオブロミンはヒトには無害ですが、テオブロミン代謝速度が遅いイヌやネコにとっては有害な成分として知られています。そこで私が行った実験では動物に使用できるようにテオブロミンを抜いたココアパウダーを用いて歯周病原菌である *Porphyromonas gingivalis* への発育抑制効果を調べました。実験の結果、通常のココアパウダーに比べると発育抑制効果が認められる作用時間は多少長くなりますが、テオブロミンを抜いたココアパウダーでも同様の殺菌効果が認められることが確認されました。さらに、数種の天然由来成分の殺菌効果を検討するとともに、イヌの歯周病原菌である *Porphyromonas gulae* を使用して実験を本格的に進めていきました。実験を進めていくうちに、動物に対する歯周病ケアが世界では盛んに行われている事も知りました。現在、動物病院で行われている歯周治療としては、全身麻酔下での歯石除去か抜歯を行うことが一般的です。また、歯周病予防を主張する商品も多く見受けられますが、物理的な方法を利用する物ばかりで、直接的な原因となる口腔内細菌の減少につながるものはほとんどありません。今後、本実験成果を基に獣医師と協力して研究を進め、ココアパウダーを始めとする天然由来の成分を利用したイヌやネコの口腔ケアに有効な予防法を確立できればと考えております。最後に、JADR/Joseph Lister Award を受賞することができたのは、口腔微生物学講座の前田教授と大島准教授のご指導のおかげと感謝致しております。また、ご助言を頂いた口腔微生物学講座の先生方と他講座の先生方にも心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

4. Joseph Lister Award を受賞して

原田 有理子
(九州大学歯学部5年)

この度 2015 年度 Joseph Lister Award 受賞させて頂きました事を大変光栄に思います。

正直な所、私は元々研究者を志していたわけでは有りません。大学卒業後に海外大学院に入学したいという思いが強く、調べていた所、応募資格に「過去の論文の提出」としている大学が多く「このままではいけない!」と思ったのが始まりです。予防歯科・口腔衛生分野に興味があったため、九州大学歯学部口腔予防医学分野の山下喜久教授に研究をさせて頂きたいと相談した所、快く引き受けて頂きました。四年生から一年間は週に一度の勉強会に参加させて頂き、5年生になると竹内研時助教の御指導のもと本格的に研究を開始致しました。

本大会では“Gender Differences in the Association between Periodontal Condition and Socioeconomic Status in Japanese Employees”という題目で「職業が歯周疾患に与える影響の性差」に関して発表させて頂きました。その背景として歯周疾患は世界中で広く蔓延する疾患であり、中高年や高齢者の歯の喪失の主たる要因とされています。日本では、健康日本21(第2次)の中で40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合を2022年までに25%まで減少させることを目標に掲げており、歯周疾患の予防は成人期以降の重要な健康課題だと言えます。また近年、歯周疾患を含む口腔の様々な健康状況が社会経済的地位と関わることが報告されています。しかし、社会経済的地位を表す指標の一つである職業と口腔の健康との関連を調べた研究の多くは対象を男性としたものであり、その結果を女性に直接当てはめることは困難だと考えました。結果は年齢、喫煙歴、過去1年間の歯科医院通院歴を調整した上で、Office Worker に比較して、男性のFarmers and Fishermenは2倍、女性のFarmers and Fishermenは3倍歯周疾患に罹患するリスクがあるという結果が出ました。また男性よりも女性の方が全職業を通じて、その職業の歯周疾患への影響が大きい事がわかりました。この結果が男女共に健康に働ける社会の実現に向けた基礎資料となることを期待しております。

今回は九州大学大学院歯学研究院が主催者という事で、IADRの会長であるDr. Marc HeftやKADRの会長であるDr. Young Kuと直接お話しする機会も頂きました。研究のみでなく、キャリア形成にもアドバイスを頂き大きな励みとなりました。またポスター発表の際に審査委員の先生方からのコメントも核心をつく、参考になるものばかりでした。

本研究を通じて未熟ながらも研究の面白さ、やりがい、そして難しさを痛感しており、これからも研究を続けていきたいと考えております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくだ

さりました九州大学歯学部口腔予防医学分野の山下喜久教授、直接指導頂いた同講座の竹内研時助教、古田美智子助教に心より感謝申し上げます。

V. JADR Travel Award を受賞して

1. JADR Travel Award 2015

William Ha BDS Sc GCRC PhD-Candidate
(School of Dentistry, University of Queensland, Australia)

I came to Japan as a representative of the Australian and New Zealand Division of the International Association of Dental Research.

I have always been impressed with the hospitality of the people and the beauty of the country.

The conference had a good representation of international academics from the Middle East to Eastern Asia. It was the perfect opportunity for me to network for my research, on “Mineral Trioxide Aggregate”, and discuss my side-hobby, mobile phone applications for dentistry.

My latest application, “BraceMate”, had its latest update released in Japanese on the first day of the conference. This was translated by Dr Ryo Hikita, a dentist from Toyohashi. It was fantastic to show Japanese dentists a new mobile phone application that is in Japanese.

I met Assistant Professor Stuti Bhargava who is now helping me translate my Braces application into Hindi, Assistant Professor Amber Fareed who has performed similar research to mine and has referred me to his colleague who has translated my application into Urdu.

I also met Dr Ho-Jae Choi who was involved in histology studies involving MTA who is getting married soon. So I hope her all the best.

Thank you JADR for the opportunity.

2. Report of 63rd Annual Meeting of JADR — JADR Travel Award 2015

Muhammad Amber Fareed PhD
(FMH College of Medicine and Dentistry Lahore Pakistan
Oman Dental College Muscat Oman)

It was a pleasure to present my research work at the 63rd JADR conference in Fukuoka, the most reputed meeting of dental researchers in Japan. My excitement began when I was selected to participate and represent Pak Association for Dental Research

(IADR-Pakistan Section) in JADR meeting. The Journey to Fukuoka was impeccable yet I had to take a long flight from Muscat-Lahore-Bangkok-Fukuoka.

Scientific Program was meticulously systematized with the recent advances in various oral and dental research themes. Special lectures by Dr. MW Heft (Oral health and aging) and Dr Young Ku (The biologic effect of oligopeptides derived from fibronectin and its application to biomimetics) were extremely valuable as they touched the profundity of distinct topics and made it captivating. I attended the Symposium III "Cutting Edge of Biomaterials for Tissues Regeneration and Reconstruction" with deep interest as it fitted nicely in my research areas. Poster presentations were a great opportunity to discuss and intermingle with the young students and fellow researchers. I took a lot of inspiration from the research posters presented at JADR.

Later during the evening, members' reception and the award ceremony was the unforgettable moments when JADR Travel Award Certificate of appreciation along with the cash prize was presented to me by the Chairman JADR. Reception party had a great taste and aroma of Japanese food (I loved the dessert), management was excellent and all the conference organizers were extremely hospitable and welcoming. I have also met new peoples and made new friends from Pakistan, India, Japan, Australia and Korea during the two days of conference. We had a good time in Fukuoka and the walk in the streets of Tenjin and Hakata will remain in my cherish memories for a very long time. Nonetheless, JADR 2015 was a fabulous experience and I am keen to visit the land of rising sun sooner again to discover more about the science, sceneries, technology, people and food.

VI. 第34回 IADR 韓国部会 (KADR) 学術大会に参加して

JADR 理事 森山 啓司

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野)

IADR 韓国部会 (Korean Division of the International Association for Dental Research: KADR) の第34回学術大会 (The 34th Annual Academic Session) が、2015年11月14日 Young Ku 大会長 (ソウル大学歯学部歯周病学講座教授) の下、ポプラの木々の葉が鮮やかな金色に染まる晩秋のソウル大学歯学部において開催されました。今回は、JADR の高田 隆 会長ならびに理事会のご推薦を受けて、大会に参加させていただく機会を得ました。Ku 大会長は、今期まで KADR 会長を務められた韓国の歯学界の重鎮のおひとりであられると同時に、また2016年6月22-25日に韓国ソウルにおいて開催される 94th General Session & Exhibition of the IADR, 3rd Meeting of the IADR Asia Pacific

Region, 35th Annual Meeting of the IADR Korean Division IADR の大会長を務められる予定で、国際的に大変知名度の高い先生です。2015年10月30-31日にかけて開催された第63回 JADR 学術大会 (中村誠司大会長) にも招待講演者として参加されましたので、日本でもお馴染みかと思われます。

さて、大会当日のプログラムの内容について少し述べさせていただきますと、Jukka Meurman 先生 (University of Helsinki, Institute of Dentistry), Zhongchen Song 先生 (Chinese Division: Shanghai Jiaotong University School of Stomatology), そして小生の3名が特別講演を行いました。特に IADR 次期会長の Meurman 先生の講演は、口腔感染症や口腔微生物と全身健康との関わりを中心に、口腔環境に及ぼすプロバイオティクスの影響等についても言及するものでした。今後の歯学研究に新たな指針を与える大変示唆に富む内容で会場は大きな感動に包まれました。その他のプログラムとしましては、IADR Unilever Hatton Competition and Awards の国内代表者選考会、さらに2014年に南アフリカ、ケープタウンにおいて行われた Hatton Competition 本選の Senior Basic Science 部門で見事第1位に選ばれた Joo-Young Park 先生 (NIH/NCI, Bethesda, USA, IADR Korean Division 代表) の講演がありました。また、一般講演やポスター発表などの多くの演題を通じて、韓国の歯学研究のアクティビティーの高さを垣間見ることができました。

学術プログラムもさることながら、韓国の先生方のホスピタリティー・スピリットにはいつも脱帽させられます。もちろん今回も決してその例外ではありませんでした。学会終了後には楽しい懇親の場を設けていただき、互いに胸襟を開きながら2016年の IADR ソウル大会での再会を誓い合いました。Ku 先生からは、「日本からは是非たくさんの方々のご参加をお待ちしています」とのメッセージを預かって参りました。韓国で初めて開催される IADR の年次大会を、是非大勢の参加者で盛り上げていただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回 KADR 年次大会への参加の機会を与えてくださいました高田会長はじめ JADR 関係者の皆様、そして熱烈に歓迎してくださいました KADR の Ku 会長や他の諸先生方に厚く御礼申し上げます。



特別講演を行う次期 IADR 会長 Jukka Meurman 先生



Young Ku 大会長（左）との会場前での一コマ

Ⅶ. 理事会、評議員会および総会報告

JADR 会長 高田 隆

(広島大学医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

2015年度は、理事会が4回(2月16日, 5月22日, 8月28日, 10月29日)開催されました。

評議員会・総会は、第63回 JADR 学術大会時の10月30日に、会場である福岡国際会議場(福岡市)において開催されました。冒頭で評議員会成立のための定足数を満たしていることが確認され、また、大久保力廣先生(鶴見大学)ならびに吉田靖弘先生(北海道大学)が議事録署名人として選出されました。

以下評議員会および総会において決定された2016年度の事業計画などについて報告いたします。

1) 2016年度事業計画

以下の2016年度事業計画が提案され承認されました。

理事会: 4回開催(2, 5, 8, 12月)

評議員会・総会: 第64回評議員会・総会開催日時(6月)

学術大会: 第64回学術大会(12月)(第94回 IADR 学術大会および第3回 APR 学術大会と併催, Seoul, Korea) 6月22~25日に CoEx Convention & Exhibition Center にて開催

各種委員会: JADR/GC 学術奨励賞選考委員会

Newsletter: 年2回発行(2月, 9月発行予定)

Mail News: 年4回程度を予定

日本歯科医学会理事会出席(陪席)

次期会長(2019-2020)選挙

KADR 学術大会へ講師派遣

IADR 2016年度 Council Meeting へ役員を派遣

APR 2016年度 Board Meeting へ役員を派遣

2017年度 IADR Hatton Award 候補者選考

IADR Vice President 候補者を IADR 本部へ推薦

IADR 各種 Committee 委員へ JADR 会員を推薦

IADR 本部へ JADR Annual Report を提出

2) 2014年度会計決算(案)および監査報告について

今里会計理事より、2014年度会計決算(案)について説明があり、原案が満場一致で承認されました。また、高野監事、村上監事より会計監査を行い適正かつ公正に処理されているとの報告がなされました。

3) 名誉会員推挙について

会則に従って、以下の会員(敬称略)が理事会より名誉会員として推薦され、評議員会および総会において承認されました。

名誉会員 高野吉郎

4) 終身会員推挙について

会則に従って、以下の会員(敬称略)が理事会より終身会員として推薦され、評議員会および総会において承認されました。

終身会員 泉澤 勝憲

小野 芳明

岡根 秀明

寺中 敏夫

細矢 由美子

山賀 保

5) 2016 Hatton Awards 候補者の紹介

2015年度第4回理事会で決定された、2016 IADR Seoul 大会 Hatton Awards 日本代表候補者4名(五十音順, 敬称略)が紹介されました。

Senior Basic Science Category

池田 安紀津

(東京医科歯科大学大学院顎顔面矯正学分野)

阪下 裕美

(大阪大学大学院歯学研究科歯周病分子病態学(口腔治療学教室))

山内 裕香子

(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子感染制御学講座)

山川 真宏

(広島大学大学院医歯薬保健学研究科応用生命科学部門 歯周病態学研究室)

Ⅷ. 第64回 JADR 総会・学術大会のご案内

JADR 会長 高田 隆

(広島大学医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

第64回 JADR 総会・学術大会は、2016年6月に韓国, ソウル(Seoul)で開催される 94th General Session & Exhibition of the IADR ならびに第3回 IADR Asia Pacific Region (APR) 学術大

会と併催で行われます。

今大会は、IADR Korean Division を host とし、Japanese Division, Chinese Division, IADR Southeast Asian Division, Australia/New Zealand Division, Indian Section, Mongolian Section, Pakistan Section の共催で行われるものです。国際色豊かな大会で、それぞれの Division, Section の年次総会もこの大会の中で行われます。この中で世界第2の会員数を誇る JADR は Asia Pacific Region の歯科医学研究の牽引役として期待されています。多数の会員の皆様の参加を得て大会を盛り上げたいと思います。奮ってのご参加を期待しております。

第 64 回 JADR 総会・学術大会

94th General Session & Exhibition of the IADR および 3rd Meeting of IADR Asia/Pacific Region (APR) と併催

開催日時：2016年6月22日(水)～25日(土)

開催場所：CoEx Convention & Exhibition Center
159 Samseongdong, Gangnam-gu Seoul 135-731 Korea
www.coex.co.kr

事前登録締切：演題発表者(4月20日)、演題発表者以外(5月18日)

主催：IADR Headquarter (IADR Korean Division)

IX. 第 94 回 IADR 総会・学術大会 (Seoul, Korea) のレポーター募集

2016年6月22日(水)～22日(土)、Seoul, (Korea) で第94回 IADR 総会・学術大会(第3回 APR 学術大会/第64回 JADR 学術大会併催)が開催されます。つきましては、JADR 会員の先生方から IADR 大会の様子など9月発行予定の JADR Newsletter 第2号にご紹介いただきたくご案内いたします。総会へ初めて参加される方からでも大歓迎です。

レポーターをお引受けいただける先生は、大会報告を7月19日(火)までに事務局へお送り下さい。多数お待ちしております。

字数：1200字程度 締切：7月19日(火)

執筆内容：第94回 IADR Seoul 大会に各自が参加した分野の報告。シンポジウム、ポスター、口頭発表などから自由に記載(過去のニュースレター参照)

原稿送付方法：TEXT file か MS WORD で、E-mail にて事務局へ送付

X. IADR Hatton Award 応募候補者 (2017年度 IADR, San Francisco, Calif., USA) の募集

2017年度の Hatton Awards 応募候補者を募集します。応募ご希望の方は6月以降に Website に掲載します応募要領をご覧の上ご応募下さい。

本賞は第10代 IADR 会長 Edward Hatton 博士の功績をたたえて設けられた若手研究者を顕彰するための賞です。応募カテゴリーは、Junior 部門, Senior- Basic Science 部門, Senior-Clinical Research 部門の3部門です。各 Division から推薦を受けた候補者は第95回 IADR 総会の前日に行われる Hatton Awards 本選にて審査を受け、各部門上位2名が順位付けで受賞者に選ばれます。

なお、各部門への応募資格と研究内容の区分は、以下のようになります。

Junior 部門：

歯学部学生による研究発表です。歯学部在籍中に行った研究が対象となります。基礎研究、臨床研究を問いません。

Senior 部門：

大学院在籍者、研究生、専攻生等による研究発表です。博士号既得者の場合、本選時に博士号取得後3年以内であれば応募できます。

Senior 部門は、下記2つの分野に分かれます。

- ・ Basic Science Research: Involving laboratory or animal research
- ・ Clinical/Pre-clinical Research: Involving research on human subjects and/or epidemiologic studies

CONTENTS

I. ●巻頭言● 高田 隆	1	I. ●XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX● Dr. Takashi Takata : JADR President	1
II. 第 63 回 JADR 総会・学術大会（福岡）報告		II. Reports of the 63rd JADR General Session	
1. 第 63 回国際歯科研究学会日本部会総会・ 学術大会を終えて 中村 誠司	2	1. Dr. Seiji Nakamura: Chairman of the 63rd Annual Meeting of the Japanese Division of the IADR (JADR)	2
2. シンポジウムⅠ報告 西村 英紀／讚井 彰一	2	2. Exploratory Research on Cell Signaling-based Periodontal Regeneration Dr. Fusanori Nishimura : Kyushu Univ.	2
3. シンポジウムⅡ報告 古谷野 潔	3	Dr. Terukazu Sanui : Kyushu Univ.	2
4. シンポジウムⅢ報告 今里 聡	3	3. Chronic Pain Problems in Clinical Dentistry: Their Clinical Features and Basic Mechanisms	3
5. シンポジウムⅣ報告 山下 喜久	3	Dr. Kiyoshi Koyano : Kyushu Univ.	3
III. 2015 年度 JADR/GC 学術奨励賞を受賞して		4. XXXXXXXX Dr. XXXXXXX : Xxxxxx Univ.	3
1. 岩山 智明	4	5. A paradigm shift from reductionism to holism: oral microbime related to human health	3
2. 大嶋 淳	4	Dr. Yoshihisa Yamashita : Kyushu Univ.	3
3. 高橋 直紀	5	III. 2015 JADR/GC Young Investigator Award	
4. 林 慶和	5	1. Dr. Tomoaki Iwayama : Osaka Univ.	4
5. 船登 咲映	6	2. Dr. Jun Ohshima : Osaka Univ.	4
IV. 2015 年度 JADR Joseph Lister Award を受賞して		3. Dr. Naoki Takahashi : Niigata Univ.	5
1. 堺 貴彦	6	4. Dr. Yoshikazu Hayashi : Kyushu Univ.	5
2. 甲山 尚香	7	5. Sae Funato : Showa Univ.	6
3. 濱田 歩実	7	IV. 2015 JADR Joseph Lister Award	
4. 原田有理子	8	1. Dr. Takahiko Sakai : Osaka Univ.	6
V. 2015 年度 JADR Travel Award を受賞して		2. Dr. Naoka Kouyama : Showa Univ.	7
1. William Ha	8	3. Dr. Ayumi Hamada : Tsurumi Univ.	7
2. Muhammad Amber Fareed	8	4. Dr. Yuriko Hamada : Kyushu Univ.	8
VI. 第 34 回 IADR 韓国部会 (KADR) 学術大会に参加して 森山 啓司	9	V. 2015 JADR Travel Award	
VII. 理事会、評議員会および総会報告	10	1. Dr. William Ha : University of Queensland, Australia	8
VIII. 第 64 回 JADR 総会・学術大会のご案内	10	2. Dr. Muhammad Amber Fareed : Oman Dental College Muscat	8
IX. 第 94 回 IADR 総会・学術大会 (Seoul, Korea) のレポーター募集	11	VI. Report of the 34th KADR academic meeting Dr. Keiji Moriyama : Tokyo Med. Dent. Univ.	9
X. IADR Hatton Award 応募候補者 (2017 年度 IADR, San Francisco, Calif., USA) の募集	11	VII. Report of the Board Meeting, Annual Business Meeting and the Councilor Meeting	10
		VIII. Announcement of the 64th JADR General Session	10
		IX. Call for Reports of the 94th IADR General Session in Korea	11
		X. Call for the Hatton Awards Competitors of the 95th IADR General Session in San Francisco, Calif., USA (2017) from JADR	11

●編集後記●

高田会長のリーダーシップによる JADR 執行部も 2 年目を迎えました。皆様のご協力により学会活動も概ね順調に進んでおります。本ニュースレターでは昨年福岡で開催された第 63 回 JADR 学術大会報告を中心に皆様にお伝えしています。中村大会長のご尽力により素晴らしい企画が行われ、多くの参加者を集めて熱心に議論が展開されました。学術奨励賞には優れた研究テーマで多数応募があり、非常にレベルの高いコンペティションになりました。受賞者の皆さんの今後ますますの活躍を期待いたします。また、本年は韓国ソウルにおいて第 94 回 IADR 総会・学術大会が開催されます。JADR と KADR には長い交流の歴史があります。皆様の多数の参加をお願いいたします。

発行 国際歯科研究学会日本部会 (JADR) <http://jadr.umin.jp/>

連絡先: 〒 612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302

アカデミック・スクエア (株) 内 TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 :

JADR 副会長 山崎和久 (新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

連絡先: 〒 951-8514 新潟市中央区学校町通二番町 5274 FAX: 025-227-0744 :

2016 年 3 月 1 日 発行